〔市内小学校の部 入賞〕

千賀の海で魚をつる

鳥羽市立弘道小学校 六年

村岡 樹

太陽の光をあびてキラキラ光るぼくの海

どこまでも続くいかだの列

千賀の海をすべつていく船

生まれた頃からこの海で針をおろす

魚をつりあげようと針をおろす

じつとさおの先を見つめ待つ

じーつとじーつと魚を待つ

ぐっぐっぐっ魚がかかった

ぼくはあわててさおをあげる

つな引き勝負の始まりだ

ぼくと魚は全力をつくして引っ張り合う

魚がどんどん見えてきた

ここで無理しちやにげられる

魚と顔を見つめ合い手に力を入れていく

最後の力をふりしぼり魚を一気にあげる

船にあがるとバシバシバシ

水飛ばし「負けた負けた。」と言ひ張った

ダイヤモンドのようにキラキラ光る魚

手でしっかりおさえると

まいったまいったこうさんだ

口をばっくりひらきぼくを見る

再び海へそつとそつと針をおろす

次から次へとつな引き勝負

二つもかかると手が痛い

ぼくの手は勢いよく引っ張られる

船の上はダイヤモンドでキラキラ光る

魚は宝石だ

いつもいつもぼくを楽しませてくれる
ぼくの大事な友達だ

海で友達と遊んだその夜は

ずうつとずうつと引っ張られている

家に帰ってごはんを食べている時も

家に帰ってふろに入っている時も

ふとんの中で夢を見ている時も

手に残っている魚とのつな引き

ぼくは魚つりが大好きだ

今日も友達との勝負に行こう

千賀の海で魚をつろう